事業評価表【途中評価】

コード	502010201
記入日	H24.6.8

作成年度	平成 **24** 年度

課コード	125
課　名	生涯学習課
課長名	西川　義男
担当者	高木　和枝

評価対象事業名称	移動図書館車活用事業

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 **17** 年度　～　平成　－　年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50201	基本事業名称	生涯学習機会の拡大	目コード	3
事務事業コード	5020102	事務事業名称	中央図書館管理費	細目コード	102
関連計画		法令・条例規則等	新上五島町図書館条例施行規則		

計画（PLAN）

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか

（対象1）　住民

（対象2）

対象指標：対象の大きさを表す指標

（対象指標1）　22,720人口(H23.4.1現在)

（対象指標2）

事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入

（全体）

*****

（評価年度実績）

・中央図書館から「ぐりぐら号・よめーる号」、奈良尾図書館から「やまびこ２号」で、図書館への来館が困難な人達への利用促進によって、読書の普及を図るため町内各地区、各施設等への巡回を実施する。

→移動図書館車　3台
→年間巡回日数　173日
→年間貸出冊数　24,909冊

活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）

	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
①	*****	*****	*****	巡回日数÷計画巡回日数	*****
	巡回日数	173日	99.4%		平成23年度
	(達成率分析)	天候にも恵まれ、有川小学校１回中止のみで実施できたため。（悪天候もあったが、地区住民の利用を考え実施した。）			
②					
	(達成率分析)				

目的：何をしたいのか

・住民がいつでも、どこでも、誰でも読書を楽しめる環境の充実を図る。生涯学習の学ぶ権利や文化的生活を保証する。

成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）

	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
①	*****	*****	*****	貸出冊数÷計画貸出冊数	*****
	貸出冊数	24,909冊	103.0%		平成23年度
	(達成率分析)	利用者の増により貸出冊数が増加した。			
②	*****	*****	*****	利用者数÷計画利用者数	*****
	移動図書館車利用者数	4,434人	104.6%		平成23年度
	(達成率分析)	書架の資料積替えを常に心掛けた担当司書の努力と考える。			

実施（DO）

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

		単位	全体計画 計画	全体計画 実績	22年度以前 実績	23年度 計画	23年度 実績	24年度 計画	25年度 計画	26年度 計画	27年度 計画	28年度以降 計画
活動指標	①	日	935	934	761	174	173					
	②											
成果指標	①	冊	168,852	169,586	144,677	24,175	24,909					
	②	人	31,752	31,949	27,515	4,237	4,434					
総事業費 C （A+B)		千円	14,534	14,530	13,297	1,237	1,233					
直接事業費 A		千円	9,634	9,630	9,097	537	533					
人件費　B		千円	4,900	4,900	4,200	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.7	0.7	0.6	0.1	0.1					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円										
	県補助金	千円										
	起　債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	14,534	14,530	13,297	1,237	1,233					

コード	502010201

評価（CHECK）

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当生	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理由	図書館の整備環境を考慮すると、利用者の利便性の確保や地域間の格差是正のためには必要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理由	住民（利用者）がいつでも、どこでも、だれでも本を借りられる環境である。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ない	理由	巡回の日数を増やしたり、個人への貸出冊数を増やすことによって、貸出冊数については向上する余地はある。（貸出期間が、１ケ月あるので、１人１０冊から２０冊へ）
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られてますか。	● いる いない	理由	利便性の悪い地区がある以上、貸出冊数・利用者の減があっても、活動結果は得られているものと考える。
		・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。	● 代えられる 代えられない	理由	よめーる号を平成２４年１月廃車にしたことで、経費の節減となる。（これ以上の経費の減とするならば、利便性の悪い地区住民は切り捨てられることになる。） ※巡回運行経路も経済的な経路で平成２４年度は見直しを行っている。

改善（ACTION）

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	出発前、帰館後司書の仕事を運転手が行ってた分を司書が行うことによって運転手の賃金の支出削減がはかられた。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2次評価	現在の体制で図書館車の活用状況に対し、住民の利便性が確保されているのであれば現行のまま事業を継続する。また、図書館車の活用においては事故等がないよう努めること。

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性

1次	2次	3次		1次	2次	3次	
●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
			事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
			事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。